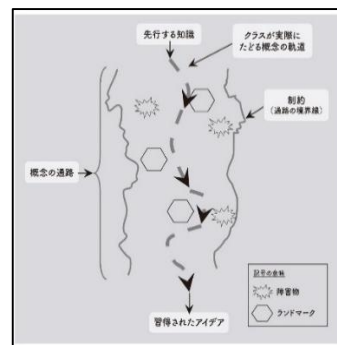


- 1 題材 「心情を色彩に込めてレイヤーで表現しよう」
- 2 教科論と本題材の関わり

【資料1】キース・ソーヤー(2021)

キース・ソーヤー(2021)は、学びの文脈を学習軌道と呼び、【資料1】のように生徒の即興的な知識構築を川に見立てて表現している。本校の研究副主題にある「問題解決・発見」を当てはめると、ある程度自由に既知の内容や経験等を基に個で課題解決を図り(問題解決)、陥りやすい過ちや行き詰まり(岩=障害物)を経験(問題発見)したり、他者との協働で認知が安定(ランドマーク)したりする。本題材では、自分が経験した心情のイメージを形や色彩に置き換える表現や鑑賞の活動を通し、心情と色彩の関係を主観と客観の視点から捉え、美しさやよさを感じとり、自分なりの学習方略を選択したり、実践したりする余地を多分に与える。



3 指導観

教材観・題材指導観	生徒観
<p>「21世紀型スキル」の一つに挙げられる創造性は、「新しさ(新奇性)」と「適切さ(価値や有用性)」の二つの基準から定義される。それは拡散的思考によって自由かつ無数に生み出されたアイデアを、意図的、論理的に収束させることを繰り返すことによって育まれるとされている。</p> <p>本題材は、生徒自身がこれまでに経験した心情を主題とし、光と色の性質や素材の透過性や色の反射で表現する活動を通して、実体のない自身の心情を具現化する造形表現のおもしろさを味わわせることをねらいとする。そこで、心情のイメージから得た着想を素材の特徴や効果的な構図を模索しながら、独自の世界を生み出すための手だてと制作環境を十分に整えたい。レイヤーの順番を入れ替えて、見え方を吟味し、直感やひらめきを生かしながら、主題にアプローチする思考のプロセスを形や色彩、配置や構図として、可視化できる本題材は、大変意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 光と色の性質や素材の透過性の特徴を捉え、それらを活かして主題に沿ったイメージを意図に応じて様々な素材や描画材を選択し表現することができる。
- 素材の特性やこころの在り様からイメージしたかたちをもとに、効果的な素材の組み合わせや重なり、配置や構図などを考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。
- 自己の内面について多面的に捉え、素材の特性を生かして表現することに関心をもち、意欲的に制作に取り組もうとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、レイヤーの積層による色彩の重なり的美しさを全体のイメージで理解している。</p> <p>イ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>ウ 自分の心情を基に主題を生み出し、素材の特性などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>エ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>オ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感情の種類やイメージする色彩などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 計 画 (6時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	2	<p>1 合唱コンクールの自由曲の歌詞と曲調から情景を想起し、既習事項による色彩表現と組み合わせて学習課題達成のために必要な学習過程を立案する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">〈学習課題〉 心情を色彩に込めてレイヤーで表現しよう。</p> <p>(1) 心情の種類やイメージする色彩や形について省察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・心情の種類と分類 ・各心情からイメージする色彩や形 </p> <p>(2) レイヤーによる表現方法を理解し、学習課題達成のための見通しを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・抽象表現の多様な表現方法と見方 ・モダンテクニックの種類と応用 </p>	<p>○ 情景に含まれる心情には多様な種類があり、それらをレイヤーに分けて表現するときに着目すべき視点を捉えさせるために、心情の種類や画材の種類やモダンテクニックの応用について参考作品を提示する。</p> <p>○ 透過性のある素材の魅力や色彩の重なりによる効果に着目させるために、参考作品のレイヤーを入れ替え、見え方が異なるものを提示し、印象の変化に着目させる。</p>	ウエ
二	2	<p>2 主題に沿ったレイヤーの構想を練り、制作する。</p> <p>(1) 主題を設定し、作品の構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・表現する心情のイメージ ・心情と色や形の関係性 ・心情の種類と情景に応じた表現方法 </p> <p>(2) 主題に沿った心情のレイヤーを制作する。 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な構図 ・透過性を活かす表現方法 ・減法混色の仕組み ・情景の表現 </p>	<p>○ 心情の種類に応じた表現方法を模索し追求させるために、心情と色彩のつながりを意識させ、表現として効果的なモダンテクニックの技法を活用しながら試行できる環境を準備する。</p> <p>○ 情景から生まれる心情を具体的な色や形の組み合わせによる構図で表現させるために、情景のどの要素を色と形、構図として取り込むのか明確な意図をもって選び抜くように促す。</p>	イウオ
三	1	<p>3 主題に沿った効果的な表現を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩の重なりによる視覚的效果 ・透過性のある素材の特徴 	<p>○ 各心情を表現するレイヤーの一枚一枚が効果的に役割を果たすために、色についての既習事項を踏まえて積層の順番を吟味する場を設定する。</p>	アオ
四	1	<p>4 完成した作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な感性による表現 ・意図に応じた表現方法の工夫 	<p>○ 本題材の本質が、作品だけではなく、探究のプロセスにあることに着目させるために、造形ファイルと作品とを合わせて鑑賞するよう伝える。</p>	エ

7 題材を終えた生徒の想定される姿

題材の学習を終えた生徒は、心情を色彩に置き換えてレイヤーの積層による表現で学んだことについて、「これまで自分が実体験をもとに経験してきた心情は、文字や言葉で表現することがほとんどで、明確な色彩のイメージをもつことはありませんでした。しかし、自分の心情と向き合い、そのときの状況を細かくイメージすることで、情景から受ける印象や心象に着目することができました。既習事項である色の仕組みや効果、構図を工夫し、明確な意図と効果的な表現の技法を結び付けながら模索追求し、不鮮明だったイメージの色や形が少しずつ鮮明になっていくプロセスの奥深さを味わい、自分の心の色彩がどのようなものか意識するきっかけになりました。また、自他の主題への考え方やイメージの差異があることで多様な表現が生まれることに気づきました。」という旨の言葉を述べる姿を最終的なゴール像として設定し、総括的評価を行う。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）4校時 二次の2 美術室にて

(2) 主眼

- 主題に向けて表現と構想との組み立てを繰り返す活動を通して、形や色彩、配置や構図などを効果的に表現したり、自他の作品を観察・比較したりすることで心情のイメージの多様性を捉えることができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動		形態	配時
1	前時の学習活動を振り返り、本時の学習課題と本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> めあて 情景の細部を具体的に捉えるために、レイヤーの重なりから見える色彩の変化を観察し吟味しよう。 </div>	一斉	10
2	表現→構想→表現のサイクルを繰り返し、心情のイメージを形と色彩に置き換えて表現する。 <想定される生徒の活動> ・減法混色の仕組みを理解した上で、透過性のある素材の特徴を活かし、レイヤーの順番を吟味し、主題に沿った表現をする生徒 ・心情を表現した透過性のある素材の効果的な配置と構図を試行する生徒 ・歌詞のイメージを再考し、アルコールインクで追加制作する生徒	個 ↓ 小集団	25
3	作品を小集団で鑑賞し、次時への見通しをもたせる。 ・表現方法に対する客観的視点 ・素材を活かした効果的な表現方法	小集団 ↓ 一斉	15

(4) 主たる手だて

活動2において、既習事項である形と色彩、その組み合わせによる構図を活用し、これまで経験した心情の色彩イメージを抽象表現させるために、効果的な表現方法を含む参考作品を提示し、素材の特徴を生かすにはどのような表現が効果的か問う。

活動3において、主観的思考と客観的視点を組み合わせて鑑賞する中で、多様な価値観を肯定的に受け入れる姿勢や相対的な自己評価の重要性について気づかせるために、小集団で他者の作品の良さを相互に伝え合う場を設ける。

(5) 想定される生徒の姿

- [展望する姿] 活動1において、既習事項である色の性質と効果を踏まえて、合唱曲の歌詞から情景を捉え自身の心情の色彩イメージを想起する姿。
- [行動する姿] 活動2において、主観的思考による表現の工夫と客観的視点による他者の作品鑑賞を通して、透過性のある素材の特徴を観察したり、配置や構図などを含めて効果的な表現方法を試行したりする姿。
- [省察する姿] 活動3における小集団による鑑賞と振り返りシートの中で、自他の表現方法や心情の色彩イメージの多様さや奥深さを客観的視点で肯定的に認知できる。

(6) 準備物

- ①アルコールインク ②ラミネートフィルム ③ラミネーター ④スライドマウント
- ⑤カッターナイフ ⑥カッターマット ⑦油性ペン ⑧はさみ ⑨無水エタノール
- ⑩ライトボックス

<参考文献>

キース・ソーヤー『クリエイティブ・クラスルーム「即興」と「計画」で深い学びを引き出す授業法』英治出版（2021）